

わたしを贖う者は生きておられる

ヨブ記 19：23－27



司祭 ヨハネ 井田 泉

聖霊降臨後第 22 主日

2025 年 11 月 9 日

聖光教会にて

今日の福音書（ルカ20:27-38）の中で、イエスはサドカイ派の人々の問いに対して正面から答えることをなさいませんでした。ここでサドカイ派の人々は、イエスに真剣な問いかけをしたのではありません。イエスをやり込めるため、イエスを陥れるために議論をふっかけてきたのです。それにまともに答える必要はない。逆にイエスは、サドカイ派の人々が見失っている大事な点を突かれました。

「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。」

ルカ 20:38

「生きている者の神」。あなたがたは生きているのか。神の前にしっかりと生きているか。あなたがたは空虚な議論に熱を上げているが、それは、神の前にしっかりと生きていないからではないか。生きておられる神の前に、生きている者として立ちなさい。理屈を重ねるのはやめて、真剣に神を求め、真実に神に呼びかけて生きてはどうか。これがイエスの反問です。

このサドカイ派の人々とは対照的に、真剣に神を求め、真実に神に呼びかけた。それも自分の命、自分の全存在をかけて神を呼び求めた人がいます。それが、今日の旧約聖書日課で聞いたヨブという人です。

主日の聖書日課としてヨブ記に触れることはめったにありません。今年はC年で、今日を含めて年に2回だけ。来年はA年で1回もありません。今日はその貴重な機会ですので、ヨブのこと

をお話しします。

ヨブ記の冒頭にこう書かれています。

「ウツの地にヨブという人がいた。無垢^{むく}な正しい人で、神を畏れ、悪を避けて生きていた。」1:1

ヨブは多くの財産を持ち、家族にも恵まれて幸せに暮らしていました。ところが突然、非常な不幸に見舞われました。ヨブは一挙に子どもたちと財産を失い、さらに全身皮膚病にかかって灰の中に座り、ひどい苦痛に全身をかきむしるという事態になりました。

3人の友人たちがそれを聞いて、ヨブを慰めようとやってきたのですが、ヨブのあまりの悲惨さに、7日間地面に座って、話しかけることもできませんでした。やがてヨブは口を開いて、自分の生まれた日を呪います。ヨブは神のなさることがおかしいと訴えます。神への抗議とともれるヨブの激しい言葉に対して、友人たちは黙っていることができず、ついに口を開いてヨブを説得しようとしています。もっと神の前に謙遜になれ。こういう不幸に見舞われるのは、何かあなたに原因があるはずだ、と友人たちは言います。ヨブは到底それを受け入れることができず、3人の友人たちとの間に激論が交わされます。

議論が高じるうちに、友人たちはヨブに対して「お前はこんなに悪いことをした、あんなにひどいことをした」と、ありも

しないことを並べてヨブを非難し、悔い改めを迫ります。友人たちの考えは結局、「因果応報」の考えなのです。

けれどもヨブは身に覚えのないことを受け入れるわけにはいきません。ヨブは神に答えてほしい。神が沈黙しておられることが耐えがたい苦しみです。それでこう言います。今日の聖書日課の少し前から読んでみます。ヨブ記第 19 章 21 節です。

「憐れんでくれ、わたしを憐れんでくれ。神の手がわたしに触れたのだ。あなたたちはわたしの友ではないか。なぜ、あなたたちまで神と一緒にあって、わたしを追い詰めるのか。肉を打つだけでは足りないのか。

どうか、わたしの言葉が書き留められるように。碑文として刻まれるように。たがねで岩に刻まれ、鉛で黒々と記され、いつまでも残るように。

わたしは知っている。わたしを^{あがな}贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。

この皮膚が損なわれようとも、この身をもって、わたしは神を仰ぎ見るであろう。

このわたしが仰ぎ見る。ほかならぬこの目で見ると。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る。」 19:21-27

だれもわかってくれなくても、親友たちさえ聞いてくれなくても、ただ神にだけは聞いてほしい。わたしの訴えを聞いてほ

しい。それだけが自分の願いです。そして彼はこう言いました。

「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついに塵の上に立たれるであろう。」 19:25

「わたしを贖う方」。「わたしを救う方」のほうがわかりやすいのですが、ヨブは「わたしを贖う方」と言いました。「贖う」というのは、何か代価を払って買い取る、苦労や犠牲を払って自分のものにする、ということです。苦しむわたしをわかって、わたしと一緒に苦しんでくださる方。深く傷ついて病んでいるわたしと一緒に傷ついて病んでくださる方。絶望的にもがいて叫んでいるわたしをそのまままるごと引き受けて、絶望ももがきも呻きもその身に負って、自分を犠牲にしてでもわたしを引き受けて救ってくださる方。それが「わたしを贖う方」です。

「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついに塵の上に立たれるであろう。」 19:25

これは、新約聖書につながります。ヨブが腹の底から焦がれて（19:27）待ち望んだ「わたしを贖う方」は、地の上に立たれたのです。それがイエス・キリストです。

ヨブは、わたしたちに先立って、わたしたちに代わって、イエス・キリストを呼び求めてくれた。

わたしたちを救う方、わたしたちを贖う方は、人となって、

この土の塵の上に立たれた。これがイエス・キリストです。

イエス・キリストは神の座を捨てて人となって地上に来られ、苦しみを受け、最後は十字架の上に傷を受けて死なれた。まさに代価を払い犠牲を払ってわたしたちを救おうとされた。ご自身の貴い命を差し出して、わたしたちを引き寄せて、わたしたちをご自分のもの、神のものとしてくださったのです。これがキリストの愛、神の愛です。

「キリストは、わたしたちにとって義と聖と贖いとなられた」

コリントの信徒への手紙Ⅰ 1:30

わたしたちは、あるいはわたしたちを救うためにそこまでの代価が必要であったことを知らないかもしれません。この世界が救われるために、神の子の十字架の死があったことに気づいていないかもしれません。けれどもわたしたちが知る前に、気づく前に、求める前に、イエス・キリストはわたしたちのために地上に生まれて、生きて、死んで、復活してくださった。それがわたしたちに、この世界に必要なだったからです。

「こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです」

エフェソの信徒への手紙 1:14

祈り文の中の洗礼式文に「贖い主」という言葉が用いられています（280頁）。洗礼の際の信仰告白で、司式者はこう問いか

け、洗礼志願者はこう答えます。

「あなたは、この世の贖い主、み子イエス・キリストを信じますか」

「わたしは、この世の贖い主、み子イエス・キリストを信じます」

ヨブが呼び求めた「わたしを贖う方」は、ヨブのために、そしてヨブだけではなくわたしたちのために、この全世界のために、地上に立ってくださったのです。

「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついに塵の上に立たれるであろう。」 19:25

この言葉は、葬送式の初めに朗読されます（祈祷書346頁）。それは、イエス・キリストが、生きている者と死んだ者両方の、すべての人の救い主にして贖い主であることを告げています。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたは神の栄光の座を捨てて地上に^{くだ}降り、十字架に死んでご自身の命を差し出されました。それによってわたしたちは救われ贖われて、神のものとされました。このことが生涯のわたしたちの支えとなりますように。生きている者

と死んだ者すべての贖い主であるあなたを、感謝してほめたたえます。アーメン